

法廷



山田秋彦

まず、山田秋彦証人の尋問です。

…………… (略) ……………



検察官

あなたは、被告人と職場の同僚ということですが、どんな仕事をしていますか。

被告人と同じ作業場所で、金属加工の仕事をしています。

火事が起きた日に、被告人が手をけがしたということがありましたか。

知りませんでした。その日に、被告人が手をけがしたという話は聞いていませんし、そのように感じる出来事もなかったと思いますが…。

…………… (略) ……………



弁護士

(被告人の手のけがの写真を示し) 作業中に手をけがするのはあり得ることですか。

それはあり得ます。

職場では、いつも被告人が目に入りますか。

それぞれ自分の仕事をしていますので、何かの機会に目にする程度です。



石川冬男

続いて、石川冬男証人の尋問です。

…………… (略) ……………



検察官

今回の火事があった日に、被告人の家に電話したことがありますか。

被告人と酒を飲もうと思って、午後8時ごろ電話をしたのですが、だれも出ませんでした。30分くらいしてもう一度電話をかけたら、今度は被告人が出ましたので、近くの居酒屋で酒を飲みました。

2度目の電話のとき、被告人から、その前に電話をかけたかと尋ねられましたか。

いいえ。私から、8時ごろかけたけど、留守だったのかと聞いたのです。

被告人はなんと言っていましたか。

そりゃ、すまん、すまんと言っていました。

…………… (略) ……………



弁護士

2度目の電話で、被告人から、「さっき電話したか」ということを言われなかったというのは、間違いありませんか。

間違いありません。最初に私の方から「俺だ、石川だ。8時ごろにもかけたけど、留守だったのか」と軽い気持ちで聞いたのです。

評議室

評議室では、裁判員と裁判官の全員で、これまでの審理の疑問点や感想を出し合いました。その際、裁判長から、最終的な判断に関する議論は、すべての証拠が出そろい、検察官、弁護人の最終的な意見を聞いた上で行うことになるという説明がありました。

その後、裁判員と裁判官は、法廷に戻りました。